



國學院大學 特集

神道文化学部の就職力!



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

第1回 古事記アートコンテスト 神道文化学部生受賞作

古事記アートコンテストは、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に選定された「古事記学」の推進拠点形成の成果の一環です。なお、学年は受賞時のものです。

【入選】「天沼矛」 吉田晴香（神道文化学部2年）

◆就職内定者の声(1)



高校時代、世界史が大好きでした。そこから世界の宗教文化や国際情勢について興味が広がりました。「世界の宗教とともに、日本の宗教文化も学びたい…」そう考えて、神道文化学部に入学を決めました。

私は社家出身ではなく、基本的な神道の知識や作法も身に付けていません。そこで入学後は、学部の学修だけでなく、神社での助勤、神楽舞サークルでの活動に打ち込みました。神道の精神を、「心」と「身体」の両面から会得していくことを心がけたのです。

神社の助勤では、御祈願での舞の奉納はもちろん、参拝者の不安や悩みに寄り添う全ての経験に、自分ならではのやりがいを感じました。「神社での経験を、社会で活かしたい…」「人々が抱える不安を、安心や夢に導くお手伝いをしたい…」そんな思いが、就職活動で自らを奮い立たせてくれました。

内定をいただいたのは、お客様にしっかりと寄り添う姿勢とともに、大和撫子のような凛とした女性が数多く活躍されていることに、かねて大きな魅力を感じてきた企業でした。

面接の際には、神道文化学部生ということで、一言目から「面白い子が来たね」と興味をもっていただき、神社や祭事についての質問を次々に頂戴しました。4年間の神道の学びが、大きな力になった場面でした。

入社後は、学部で得た知識、神社で得た経験を活かし、少しでもお客様のお役に立てるよう、日々精進していきたく願っています。いつも私を見守り、手厚くサポートして下さった皆様方に、心より御礼申し上げます。

神社での経験を広く社会で活かしたいと思っています



日本生命保険相互会社 内定

山口 瑞生さん

◆就職内定者の声(2)

「神道のこころ」でお客様に寄り添っていきたく思います

私は社家出身ではありませんが、信仰心が厚い祖母の勧めで神道文化学部に入学しました。神職課程を履修したので、奉職することも考えましたが、3年次に入って、一般企業への就職を目指すことを決めました。

就職活動を始めた頃は、正直、自分が何をしたいのかというイメージが湧きませんでした。ひとまず業種を問わず様々な企業の説明会に足を運びました。そうした中で、ある友人の誘いで金融業界の企業の説明会に参加しました。そこではじめて、自分が具体的に働いている姿がイメージできたのです。「誰かのために役に立ちたい、誰かのために貢献できる仕事がしたい…」そう考えて、ライフデザインや相続等、お客様の人生についてお手伝いできる証券業界に興味をもちました。

内定をいただいたのは、女性社員の方々の凛々しさに、かねて魅力を感じていた企業でした。「こんな素晴らしい上司の方のもとで働きたい…」そう素直に思えたのです。

数多くのお客様の人生に寄り添う仕事なので、4年間で学んだ神道のこころ・ご奉仕のこころを、しっかりと活かせると思っています。

神道の精神を胸に刻み、日々精進していきたく願っています。



野村證券株式会社 内定

石月 実咲さん

◆就職内定者の声(3)

神道文化学部長で人と違う経験を積んできたことが、大きな力になりました

神道文化学部入学のきっかけは、たまたま手に取った本学の入学案内です。冊子を手にとった際、神道文化学部のページが目が止まりました。普通の学部ではあり得ない「和」の雰囲気、とても心惹かれました。今までにない体験をしてみたいという想いから、この学部への進学を決めたのです。

入学当初は、はじめて学ぶことばかりで、いささかの戸惑いもありました。けれども先生方の親身なご指導、友人たちの暖かい気配りのおかげで、実に有意義な4年間を過ごすことができたと思います。とりわけ楽しかったのはお神輿サークルの活動。いつも全員参加でお神輿を担ぎ、大学生活を謳歌しました。

就職活動では、日本でただひとつの学部で、人と違う経験を積んできたことが、大きな力になりました。面接官だけでなく、はじめてお会いする方にも、一方ならぬ興味をもっていただけたことが少なくありませんでした。

大切な面接では、自分よりも年上の方とお話することになります。祭式の授業で礼儀作法を学び、神社の助勤で目上の方とお話する機会が多々あったことも、就職活動の上で大いに役立ったと感じています。

おかげさまで、わが国有数のメガバンクから内定をいただくことができました。これもひとえにサポートして下さった方々のおかげです。神道文化学部には、様々なことに挑戦できる環境があり、力になってくださる方々が数多くいらっしゃいました。

「神道文化学部に入って、本当に良かった…」卒業を前にした今、そんな思いを噛み締めているところです。



株式会社みずほフィナンシャルグループ 内定

小林 祐貴子さん



◆就職内定者の声(4)



日本は水穂の国、食を通じて皆を幸せにしたいと思っています

私は社家出身ではありません。入学当初から一般企業への就職を目指していました。「どんな業界、どんな職種を目指せばいいのか…」就職活動を前にして、自分なりに自己分析を重ねました。この業界について詳しく知りたいと思った時は、積極的にアポを取り、企業の方からお話をうかがいました。そうした中で、だんだんの自分のテーマが見えてきたのです。

私は15年間サッカーを続けてきました。体を作る「食」の大切さを、ずっと意識してきました。神道文化学部では、「古事記」の講読等を通じて、稲作を貴ぶ「水穂の国」の精神、命をつなぐ食の大切さをしっかりと学ぶことができました。

「食を通じて、多くの人を幸せにしたい」そう考えて、日本人の食を幅広く扱う「食品の総合商社」を目指すことに決めました。おかげさまで、業界大手の食品会社から内定をいただくことができました。

振り返ってみると、職員や先輩の方々、とりわけゼミの先生方の行き届いたサポートを得て、良き学生生活を送ることができました。そのことが、まっすぐに就職活動の成果に繋がっていったと思います。

15年間続けてきたサッカー。4年間の神道文化学部での学び。そのどちらが欠けても、今の自分はなかったと思います。今まで支えて下さった方々への感謝の思いを忘れることなく、社会人としての一歩を踏み出したいものと願っています。



株式会社日本アクセス 内定

清水 康平さん

◆就職内定者の声(5)

「日本という国を、神道の視点から学びたい」そう考えて、神道文化学部への入学を決めました。入学後、卒業までに3つの資格を取得する目標を立て、1年次から博物館学課程と教職課程を、2年次からは神職課程を履修しました。教育実習や神社実習を通じて、自ずと社会で必要とされるマナーや常識を学ぶことができました。また1年次以降、神社で助勤を続けてきました。自ずから身に付いた立ち居振る舞いが、自分の強みになったと実感しています。

就職活動に際して、私は不動産業界を目指しました。身内の経験から、お住まいの提案こそ、数多くのご家族の幸せに繋がると考えたためです。私は、そのために働く方々のサポートをしたいという思いから、営業ではなく、事務職を希望しました。おかげさまで、業界有数のリーディングカンパニーから内定をいただくことができました。

この間、教育実習と就職活動の時期が重なり、精神的にも肉体的にも辛い時期を過ごしました。私だけの力でこの両方を乗り越えることは、絶対にできなかったと思います。いつも気にかけてくださった教職員の方々の、温かいサポートがあったからこそ、辛い時期を乗り越えることができました、心から感謝申し上げます。

これから就職活動に臨む後輩の皆さんは、決して「ひとりぼっち」ではありません。両親以外にも、心強いサポーターや友人たちが周囲にいる事を、決して忘れないでください。皆さんが、念願の内定に向けて、新たな一歩を踏み出すことを、心から祈っています。



多くの方々のサポートで
苦しい時期を乗り越えることができました



住友不動産販売株式会社 内定

中田 真穂子さん

◆就職内定者の声(6)



白衣袴の学生たちに
導かれて

私のルーツは海外です。当初、本学の他学部に入りました。入学直後からインターンシップ、ボランティア等の課外活動に参加し、そこで多くの方々と出会いました。

自分がロールモデルにしたいと思う方は、必ず「夢」をもって仕事をしていました。「夢」に向かって本業に打ち込む彼らは、とてもキラキラと楽しそうな雰囲気身を纏っていました。私はそんな人たちもっと出会いたいと思い、今度は学内に目を向けました。

すると、以前から不思議に思っていた白衣袴姿の学生たちが、とても楽しそうにしていることに気付いたのです。彼らと関わりをもっとみると、彼らに共通するものが見えてきました。それは、「夢」と「使命感」でした。「彼らが学んでいることを、私も学びたい…」そんな思いから、私は神道文化学部へ転部しました。それは将来への道筋を見出すきっかけとなりました。

神道文化学部で身をもって学んだことは、自然の営みの大きさ、人の営みの大切さ、その尊さでした。

そして始まった就職活動。内定をいただいたのは「モノを作るだけでなく、新しい未来に向けて『還す』ことをポリシーとする会社でした。神道のところと通じ合うかのような会社の使命感が、私の心を揺さぶりました。

前例で選ぶのではなく、やりたいことで選ぶ。何よりもまず、楽しむことを忘れないこと。後輩の皆さん、学生生活だけではなく、人生を謳歌してください！



ベステラ株式会社 内定

河 宗傑さん

◆就職内定者の声(7)



神道のところを、
お勤めの現場で活かします

小学生の頃、男の子のような遊びを好む一方で、習い事は華道と琴でした。高校時代は茶道部で活動しました。「日本文化について、さらに深く学びたい…」大学進学に際し、そう思って神道文化学部を選びました。



入学後は、神職課程・博物館学課程を履修すると共に、お神輿サークル「若木陸」に入会、さらに大学行事にも積極的に参加しました。学生生活を十二分にエンジョイすることができたと思います。

4年次からいよいよ就職活動。面接では、いつも次のような問いかけを受けました。「あなたは大学時代どんなことを頑張りましたか、困難にぶつかった時にどうやって乗り越えましたか…」私のアピールの柱は、次のようなものでした。

例年の観月祭で斎庭係として裏方を担ったこと、若木祭神輿渡御の執行部として会計管理や準備運営に携わったこと、神社の助勤で参拝者の方々に寄り添ったこと…。

おかげさまで内定を頂いた企業は、地域に密着し、安心・信頼を礎としてお客様の「トータル生活サポート」を目指す会社です。

神道の学びや大学行事への参加で得たもの。それは、「相手の気持ちを汲み取り、真心を込めてご奉仕する」という姿勢です。お勤めの現場でも、ぜひ神道のところを活かしていききたいものと願っています。



日本郵政グループ・日本郵便株式会社 内定

中村 瑠里さん

◆就職内定者の声(8)

人との繋がり、
和の力を胸に刻んだ
4年間でした

私はかねてから日本文化に興味がありました。ぜひ神道を学びたいと思い、國學院大学へ入学しました。

入学後は、特色のある授業や神社実習、お神輿サークル若木陸での活動を通じて、ここでしかできない経験を数多く積むことができました。いずれも初めて体験することばかりで、友人や先輩後輩、先生方に支えていただき、充実した日々を過ごすことができました。人との繋がり、和の力。その大切さを胸に刻んだ4年間でした。

就職活動では私自身が多くの方々から支えられてきた経験から、誰かを支えるような仕事に就くことを目標にしていました。面接では、神道文化学部ならではの経験に興味をもっていただけた場面も多く、おかげさまで大手の生命保険会社から内定をいただくことができました。卒業後は、人との繋がりを大切にしながら、出会った方々をしっかりと支えられるよう、日々精進していきたくと思っています。



大手生命保険会社 内定

藤井 伶奈さん

◆就職内定者の声(9)



私は神社の家に生まれましたが、ジャーナリストであった父親の影響もあり、昔から様々な事柄に興味や疑問をもっていました。神道文化学部でも、学部の先生方はもちろんのこと、他学部・他大学の先生方、都内のムスリム（イスラーム教徒）の方々のお力を借りながら、神道以外の諸宗教についても幅広く学びました。

4年間、実際に様々な場所に立ち、自分の目で様々なものを見ることを心がけてきました。そのことによって、学びの楽しさ、大切さを深く知ることができたのは、とても大きな収穫だったと感じています。

ゼミでは、ヘイヴンズ教授のもと、多文化社会や寛容性の大切さについて学びました。演習論文では「神道と寛容」という視点を切り口に、これまでに他国で行われた多文化主義政策、その日本との関わりなどを調べました。

神道の精神で、チャレンジを
続けていきたいと思っています



金融関連企業 内定

徳橋 唯子さん

就職活動においても「全く新しい場所に立ちたい」と考えて、これまでほとんど縁のなかった金融業界を中心に面接を受けました。

「4年次、明階総合課程を履修しながらの就職活動は前例も少なく、きつととても大変になるよ…」先生方や先輩方にそんなご心配をいただきました。けれども、学部で就職活動中の友人たち、さらに奉職に向けて準備中の明階総合課程の仲間たちと励まし合いながら頑張り、おかげさまで目標を達成することができました。

卒業後は証券会社で働くこととなりますが、もちろん私のルーツは故郷の神社です。神道の精神を身に体しながら、新しいチャレンジを続けていきたいと思っています。

◆地方公務員への道(1)

神道文化学部入学のきっかけは、小学3年生の頃からはじめた雅楽です。

神社のお祭りや結婚式でご奉仕するようになって、自然と神社への関心が高まってきました。

神道文化学部に入學して最初に学んだのは、地域の神社や伝統的なお祭りが、地域共同体の結束の中心となっているということでした。

そこで3年次からのゼミでは、丹生都比売神社及び高野山金剛峯寺における神仏習合の実態を調査しました。

社寺の営みが地域社会に深く根付いていることを、いよいよ痛感するようになりました。

「学部の学修だけでなく、自分の足元で地域貢献をしたい…」そんな思いから、地元観光協会でのボランティア活動に参加するようになりました。

その活動の中で、既存の地域共同体が、少子高齢化の急速な進展によって、大きく揺らいでいる状況を目の当たりにしたのです。

「自分が生まれ育った故郷を、少しでも建て直したい…」そんな思いが強まり、地元の市役所職員を目指すことに決めました。

厳しい試験と面接を乗り越え、おかげさまで内定通知をいただくことができました。

地域の課題を解決する上で、地域の歴史や文化伝承への理解を欠かすことはできません。

神道文化学部ならではの学びを活かし、故郷再建に微力を尽くしていきたいものと願っています。



学部の学びを活かし、地元での
地域貢献に微力を尽くします



地方公務員 内定

下山 貴彦さん

◆地方公務員への道(2)



4年間の神道の学びを
地域文化の振興に
役立てたい

私は九州の出身です。神道が好きで、神道文化学部が第一志望でした。受験に際しては、経済的な問題を考え、給付型奨学金制度の充実したフレックスA（夜間主）を志願しました。フレックスAの授業は夕方からです。昼間はアルバイトで学費を補いました。

とりわけ熱中したのは、ある学校の事務の仕事のお手伝いです。その中で、学生をサポートする事務職の仕事の大切さ、大変さを知りました。

そこで就職活動に際しては、当初、大学の事務職員を目指しました。自分なりに懸命に頑張りましたが、目標達成には至りませんでした。

自分は就職浪人が許される立場ではあません。急遽、地方公務員に目標を転換し、全力で試験準備にかかりました。限られた時間の中、死に物狂いで勉強しました。

おかげさまで内定をいただいたのは、地域文化の振興に力を注いでいる首都圏の市役所です。4年間の神道の学びを、ぜひとも活かしていきたいものと願っています。



地方公務員 内定

佐藤 甫胤さん

◆社家でなくとも神職に(1)



私の実家は、社家ではありません。入学した当初は、神社についての知識はほとんどありませんでした。大麻と玉串の区別すら、よくわかっていませんでした。

けれども4年後には、おかげさまで、我が国でも格別の由緒あるお宮から、奉職内定をいただくことができました。

私は他の神道文化学部生が出来ないような、特別なことをしていたわけではありません。通学時間が長かったので、神道系サークルにも入っていませんでした。4年間しっかりと授業を受け、神社や神道についてしっかりと勉強しました。

神社実習で様々なことを経験しました。助勤で様々な神社にご奉仕させていただき、「神社にご奉仕するとは、どういうことか」を、身をもって体験しました。「ぜひ神社に奉職したい」そう強く思ったからこそ、念願の奉職を叶えることができたのです。



家が社家でなくとも

実家が社家ではなく、神社へ奉職しようか迷っている人はいませんか。そんな人は、まず実際に神社で助勤をしてみてください。助勤にも様々な種類があります。できるだけ多くの神社で助勤をしてみましょう。

大きい神社、小さい神社、都市の神社、地方の神社…。同じ神社の現場でも、全く違った光景が見えてきます。

神社の様々な役割、地元の人たちとの関り、神社で奉仕することの楽しさ、大変さ…。そうしたことをしっかりと体験してから、奉職についてじっくりと考え直してみてください。



神社奉職 内定

加藤 翔太さん

◆社家でなくとも神職に(2)



神社奉職 内定

山田 佳奈さん



常に奉職を目指して行動しました

私は社家の出身ではありませんが、幼いころから神社と関わりながら成長してきました。巫女としてのご奉仕、氏子としての活動…。「これからは、神職として神社に関わってみたい」「神社と人々の懸け橋になりたい」そんな思いが高まり、神道文化学部への入学を決めました。

入学後は、常に「神社への奉職」を目途として行動しました。神楽舞サークルやお神輿サークルでの活動、大学行事への積極的な参加…。

とりわけ感銘深かったのは本学恒例の観月祭です。いつも仲間たちと力を合わせ、真心籠めて神楽舞や棗を奉納させていただきました。

学業面では、通常の神職課程だけでなく、明階総合課程や学芸員課程も履修しました。宗教法人の実務や文化財の扱い方等、ご奉仕に必要な諸々の技能を習得することができました。

思えば、学部の学修はもちろん、神社での実習や助勤を通じて、「神職であること」とはどういうことなのか、深く身に体することができたように感じています。

おかげさまで、先般、由緒あるお宮より奉職内定をいただきました。学部で学んだことを活かし、女性神職として精一杯ご奉仕させていただきたいものと願っております。

◆社家でなくとも神職に(3)



生きた信仰を身をもって
学ぶことができました

私は社家の出身ではありません。神道の勉強がしたいと思い、國學院大學神道文化学部へ進学しました。

入学式当日、誓詞として自らの決意を読み上げたあの頃の初心を忘れずに、1年次は基礎をしっかりと培い、腰を据えてじっくりと学び、それらを糧に2年次以降の神社実習では、各地の神社を訪れることにより、生きた信仰を身をもって学ぶことができました。

学びの土台となるのは、もちろん普段の授業ですが、仲間と切磋琢磨し合いながら、互いに高め合うことができたと思います。この4年間、ひとつひとつの段階を経て、着実に自分の学びを深めていくことができました。

おかげさまで、先般、京都の由緒あるお宮から奉職内定をいただきました。よき女性神職を目指して常に研鑽を重ね、微力ながら神社界の一翼を担っていきたいものと願っております。



神社奉職 内定

小野 沙也加さん



神道文化学部独自の各種講座

神道文化学部では、就職・奉職、および就職・奉職の「その先」を見据え、素養とスキルを高めるための各種講座を開催しています(無料)。



女子学生のための就職セミナー



マナー講座



書道講座



和歌講座



衣紋講座



田んぼ学校



御幣講座

オープンキャンパス(渋谷キャンパス)

6月3日(日)/8月4日(土)・5日(日)・25日(土)/9月30日(日)

お問い合わせ:入学課 電話 03-5466-0141